

出張報告書

2023 年 7 月 28 日

幹事長

坂上 巳生男 殿

出張者氏名

江川 慶子

下記のとおり報告します。

1. 出張先 岡山

2. 出張日時 2023年7月22日～2023年7月24日

3. 出張用務（宿泊を要する場合はその事由）

第56回自治体学校 が三日間開催されたため

参加費 14,000円 宿泊代金 22,440円 計36,440円

4. 旅 費

日根野～岡山 14,750円

岡山～小橋 2日 560円（140円×4回）

計 15,310円

5. 報 告

別紙報告書にて

第65回 自治体学校in岡山

2023年7月23日(土)～24日(月) 参加 江川慶子

7月22日は、全体会で岡山市立市民文化ホールにて記念講演を聞きました。

記念講演1 「地方自治と地域 この1年から考える」 講師 中山徹氏

「厳しさが増す自治体をめぐる状況では、どうすればいいのか？」という

投げかけから、若者たちが自分の将来への展望が見いだせない状況が生まれてきている。何が必要か？ 地方政治をかえるために社会やまちづくりに関心を持ち、自治能力があがるよう情報の公開などが必要。まちづくりは人づくりである。など受け止めました。

記念講演2 「地域の主権を大切に、ミューニシパリズムの広がり」講師岸本聡子

2022年杉並区長選挙にて「公共の再生」「草の根の民主主義と自治」を掲げ当選した岸本氏。地域主権や自治をめざす自治体が現れ「ミニユニシパリズム」というコンセプトでつながっている。世界で実践されている事例をもとに日本の自治体でも挑戦ができないだろうか。とにかく元気で前むきなお話でした。

7月23日 9時半から16時 分科会2 「医療と公衆衛生体制強化への道すじを考える」～医療と公衆衛生体制の強化を考える～ 講師は長友薫輝(佛教大学社会福祉学部)

地域に住み続けるためには、医療・公衆衛生体制の強化が必要です。政府はながく医療・公衆衛生を抑制してきた末、今度は新型コロナウイルス感染症対策の強引な幕引きを図ろうとしています。これではこれからの感染症に備えられないばかりか各地の医療供給体制、公衆衛生体制がさらに弱体化してしまいます。医療崩壊の主因である公的医療費抑制政策の転換を公衆衛生体制強化の道筋を考えました。2024年度からの第8次医療計画策定等、十分なコロナ禍を検証する必要があるにもかかわらず欠けていること。福祉施設等での「留置」の問題対策もできずにいること。

地域の医療保障・公衆衛生をつくる視点は、健康にも経済にもよい効果が生まれる。公的医療費抑制政策の中で、医療から介護、介護から地域・自治体へとシフトしている。非公開で非科学的な部分にはもっと政策展開が必要。入院医療や外来医療の抑制、公立・公的病院の再編、統廃合。次はかかりつけ医機能の制度化などがすすめられている。安心して医療が受けられるような手立てが必要だと思いました。

7月24日 全体会 岡山市立市民文化ホール

「暮らしから考える自治体行政デジタル化」 講師 本多滝夫氏

「地方自治体が直面する課題への挑戦」 講師 太田 昇氏

二つの特別講演を聞きました。